

平成 22 年度ドライブレコーダ・データベース構築のための調査検討（案）

1. 調査の目的

近年、事故やヒヤリハットの発生前後のデータを映像とともに記録する映像記録型ドライブレコーダが事業用自動車を中心に普及しつつある。これからの車両安全対策を推進するにあたっては、正確かつより詳細な事故分析が必要であり、従来の交通事故の統計データだけでなく、ドライブレコーダのデータを活用していくことが必要である。

本調査では、ドライブレコーダを活用した事故分析の拡充及び強化に資するため、事故やヒヤリハットのデータを収集・管理・活用するデータベースを含めた総合的なシステムの構築を目指して、当面の目標である事故データのデータベース仕様、利用方法等について検討を行う。また、安全運転教育等、事故分析以外のデータベース活用についてもあわせて検討を行う。

2. 調査の内容

2. 1 統一データフォーマットとドライブレコーダの標準仕様の検討

ドライブレコーダの機種が異なってもデータベース上で利用できるように統一された事故分析に適したデータフォーマットについて検討する。この際、ドライブレコーダ側での対応が困難であることが想定されることから、機種によって異なるデータフォーマットをデータベース登録用の統一フォーマットへ変換することを前提とする。

2. 2 データベースの詳細設計

昨年度に検討したデータベース仕様素案に基づいて構築し、このデータベースを活用するためのハードウェア（記憶容量（HDD）、CPU、メモリ、OS 等）の要件、ソフトウェア（データ管理ツール等）の要件について検討する。

また、ドライブレコーダが記憶する事故発生前から事故に至るまでのプロセスについて、事故分析に利用しやすい（データを取り出しやすい）形でデータ化する手法を検討する。

2. 3 データベース運用システムの設計

上記 2.2 のデータベースを運用するためのシステム設計を検討する。

- ①ドライブレコーダ事故データの回収
- ②事故調査票の作成
- ③データベース管理者へのデータ提出
- ④データベースへの登録

までの一連の流れを具体化する。ここで検討した運用システムを複数の運送事業者の協力のもとに試行して実用的であるかどうかを検証する。

2. 4 運用システムの課題の抽出

上記 2.3 の事故データを回収してからデータベースへ登録するまでの試行的な運用を通してデータベース及び運用システムの課題を整理する。課題は、データフォーマット面（データベース登録に有用かどうか等）、ハードウェア面（ドライブレコーダ及び事故調査票の提出方法・管理方法等）、実施面（作業負担、作業時間、実施できるかどうか等）から整理し、抽出された課題への対策も検討する。

2. 5 事故記録装置に関する海外の動向

文献やインターネット調査等により、海外におけるドライブレコーダや EDR 等の車載記録装置による事故時のデータ収集に関する動向について調査を行う。

3. 検討会、WGの設置

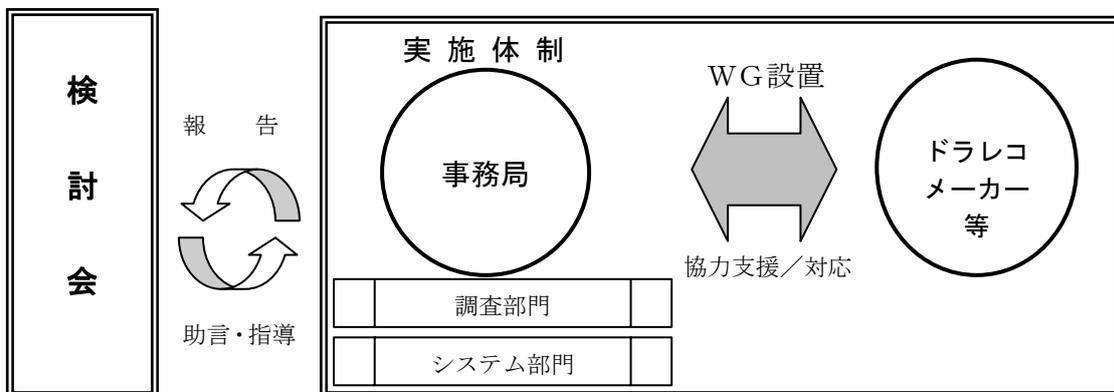
3. 1 検討会の設置

本調査の検討を進めるにあたっては、事務局に設置する「ドライブレコーダ・データベース構築のための調査検討会」（以下、検討会）の助言・指導に従って業務を実施する。検討会の構成は、「平成 21 年度ドライブレコーダを活用した事故分析の拡充・強化のためのフィージビリティ調査」の委員を基本とする。

3. 2 WG（内部検討打合せ会）を設置

本調査の具体的な作業については、技術的専門見地が必要となることが想定されるため、必要に応じてWG（内部検討打合せ）を設置する。WGで検討した事項を検討会に提出する。

現時点でのWGの構成は、ドラレコメーカーを想定する。



実施体制図（イメージ）

4. 調査スケジュール

本調査のスケジュール（案）を以下に示す。

調査スケジュール（案）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
統一データフォーマットとドライブレコーダの標準仕様の検討	→					
データベースの詳細設計	→					
データベース運用システムの設計	→					
運用システムの課題の抽出				→		
車載記録装置に関する海外の動向		→				
報告書の作成					→	
調査検討会の開催		○		○		○
WGの開催（予定）		○	○	○		